



見附市立見附小学校 学校だより

「自ら学び 進んで鍛え 共に伸びる見小の子」

みしよ

No. 363

令和7年6月27日（金）発行

〒954-0052

見附市学校町1丁目3番89号

Tel 0258 (62) 0141



言葉で伝え合う

校長 後藤 正美

スマートフォンやインターネット等の画面と長くつきあうことをすると、体調を崩す「テクノストレス症候群」という病気になってしまいます。テクノストレス症候群は、脳疲労により生命を維持している自律神経を乱してしまう。（中略）今できることは、スマートフォンで検索するのではなく、未来になりたい自分を自分で考え、近づく努力だと思います。（中略）

幼い頃から、機器類が相手だったのだ。人と向き合う時間が少なかった。人との駆け引きができなくなってしまった。その結果、人酔い症状が出ているのです。（後略）

『子供の心が折れる前に親に読んでもらいたい本』より

これは、精神科医の浅川雅晴さんの著書からの引用です。具体的な事例を見てきた専門家だからこそ言える意見が、多く書かれていました。子供のスマホ時間だけを問題にしているのではなく、保護者の顔がスマホ画面に釘づけになっていることで、子供が「人と向き合う時間」も少なくなっていることへの警鐘を鳴らしています。

さて、ピース学年は今週佐渡への修学旅行へ行ってきました。修学旅行の目的は、仲のよい友達数名との思い出づくりではありません。学年の様々な人とかかわりながら一緒に過ごすことで、今まで気付かなかった仲間のよさを見付けたり、社会で生活する上でのマナーを身に付けたりすることです。それほど親しくない仲間であっても、さりげなく入っていける接し方を学び、心を一步成長するチャンスにしたいのです。もちろん集団旅行ですので、順調なことばかりではないかもしれません。

しかし、スマホもおやつもテレビもない生活にもかかわらず、二日間を楽しく過ごせたのはなぜでしょう。それは、いつも以上に会話をして、人と人とかかわり合いがあったからだと思うのです。一緒に見学する、一緒に食事をするなど、活動を通して言葉で伝え合う経験こそ、子供の心に残ると思うのです。

1つのピースも欠けることなく、77名が参加して思い出パズルを完成できたこと。これが何より素敵なことでした。これからの学校生活でも、人とかかわるための言葉を覚え、選び、気持ちを伝え合える最高学年の姿を後輩へ見せてください。